

心の散歩道

『人 もし生きること ^{ももとせ} 百年ならんとも 無上の法を見ることなくば
無上の法を 見る人の 一日生きるにも およばざるなり 』

これは、法句教の中の一節です。簡単に説明をしますと「百歳まで長生きしても、仏教の教えを知ることがなかったなら、仏教の教えを知って一日生きた人にも及ばない。」という意味です。

私たちは、日々健康に気をつけて、一日でも長く生きることが幸せな人生を送ることだと思っています。しかし、お釈迦さまはそんなことより、仏教の教えに触れる（法を知る）ことがなければ、いくら長生きしても意味がないとおっしゃっています。折角、得がたき人身を得て生きてきても、ただ漫然と生きている・欲望のままに生きるのであれば、命の浪費をしているだけなのです。

先日から世間を騒がせている、耐震強度偽装問題や・ライブドアにおける証券取引法違反等の金融事件に見られる、お金で世の中が動いている。自分だけが幸せになれば良いと考える人達は当然のことですが、日々欲望のままに命を燃やしている人も、人の道を歩んでいるとは言えませんね。確かに、現在社会はお金が無ければ生きてはいけない社会です。でも、暴利を貪り、市場が望む商品を適切な流通に載せずに生産をして利益を稼ぐことも法を知らない生き方だと言わざるを得ません。

仏教は、『一切衆生』と説きます。植物であれ・動物であれ・物であれ・自然であれ・宇宙であれ。全ては衆生（人）と同等の生命を持った生き物であり、全ての存在を等しく認め有うところに法が有ると説かれています。

また、お大師さまは、『煩惱即菩提』とも説かれていて、一般的には、煩惱は穢れたものであり、欲望を少しでも無くすことが仏教の教えると言われますが、煩惱・欲望を無くしてしまうと人としての価値も少なくなります。

正しい煩惱こそが即ち、仏の行いで有ると説かれています。他人の為・未来の社会の為に、良い行いをする事が法を見る（仏教を知る）ことであり、人の道を歩むことではないでしょうか。

- 1、人間は欲望があるから成長できる
 - 2、人間は迷いがあるから賢くなれる
 - 3、人間は苦しみがあるから強くなれる
 - 4、人間には知恵があるからすべてのものを活かしてよりよい人生をいけることができます。
- 合掌

